



## 8人制サッカールールと審判法



DREAM

財団法人 日本サッカー協会

# RESPECT

サッカーを楽しむために不可欠な要素として“リスペクト”の精神があります。

“リスペクト”とは、相手を大切に思うこと、相手に思いやりを持つこと、  
競技規則を守ること、審判員の判定を尊重することです。

《 フェアプレーの原点です 》



日本サッカー界において、JFAとJリーグが共同で  
“リスペクト”精神あふれるサッカーを広めることに取り組んでいきます。

## 8人制サッカー導入とルールの考え方

ユース年代、低年齢層の競技者が多くの試合をプレーするためにはリーグ戦が不可欠である。  
リーグ戦文化の醸成は日常のサッカー、スポーツ文化の発展に寄与する。  
特に小学生年代の競技者は、生活圏レベルで数多くの試合を楽しむことが求められる。

小学生年代の子どもたちが楽しみ、成長できるサッカーやフェアプレー精神が育まれることを念頭に、現在のサッカー競技規則をベースとして、小学生年代の選手のための8人制(少人数)サッカーのルールを制定した。  
このルールに基づき、サッカーがこれまで以上に、日常的に楽しめるようにしていただきたい。

(財)日本サッカー協会  
技術委員会・審判委員会



## 8人制サッカールール

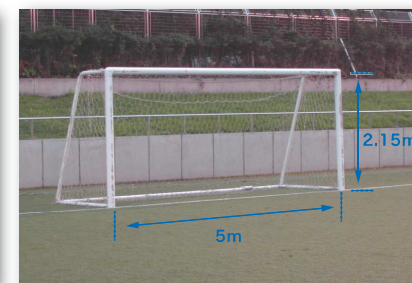
\* このルールに規定されていない事項については、(財)日本サッカー協会発行の(最新版)サッカー競技規則を準用する。

### 競技のフィールド

- ① **表面**：芝、人工芝が望ましいが、土等でも可能とする。  
ただし、競技者が転倒等により負傷しやすい表面は認められない。
- ② **大きさ**：68m×50m(大人のサッカー場の半分：2面のフィールドが設置可能)を推奨するが、試合会場の大きさによって修正しても良い。
- ③ **ペナルティーエリア等**：

ペナルティーエリア	= 12m
ペナルティーマーク	= 8m
ペナルティーアークの半径	= 7m
ゴールエリア	= 4m
センターサークルの半径	= 7m
- ④ **ゴール**：5m×2.15m(少年サッカー用ゴール)を推奨する。  
\* 少年サッカー用ゴールがない場合、フットサルゴールを2つ並べて1つのゴールとしたり、コーンによる代用は可能とする。その際、2つのゴールの中央のポストに当たった場合やコーン上部の仮想クロスバー下をボールの全体が通過した場合には、主審は得点を認める。

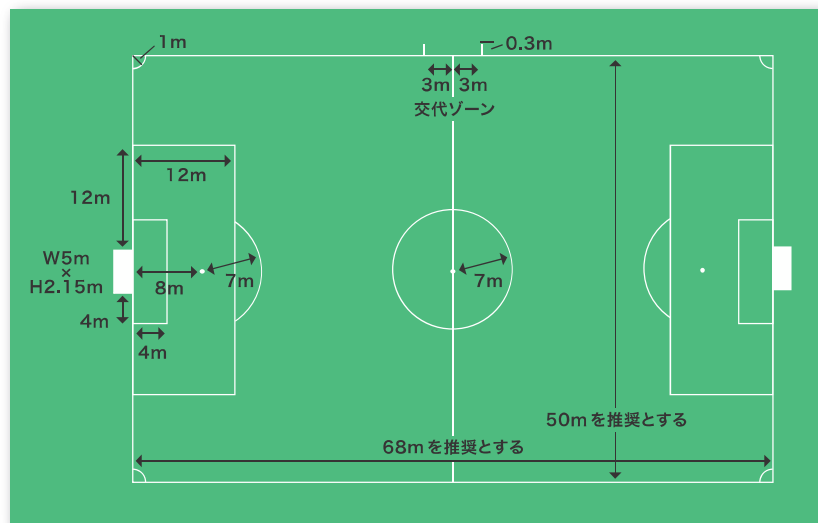
\* ゴールは、競技者が負傷しないよう安全に設置しなければならない



- ⑤ 交代ゾーン：自由な選手交代のため、ベンチ側のタッチラインのハーフウェーに6mの交代ゾーンを設ける（ハーフウェーラインを挟んで3mずつ）。



## フィールドのレイアウト見本



## ボール

少年用の4号球を基本とする。

## 競技者の数

- ① 8人（うち1人はゴールキーパー）を基本とする。  
\*一方のチームが8人に満たない場合、両チーム合意の上、極力両チーム同数とする。
- ② 交代要員の数は4人～6人を基本とするが、当日の全選手数によって両チームが事前に合意し、その数を決定する。
- ③ 交代の手続き：
  - (1) 交代して退く競技者は、交代ゾーンからフィールド外に出る。
  - (2) 交代要員は、交代ゾーンからフィールドに入り、競技者となる。
  - (3) 交代は、ボールがインプレー中、アウトオブプレー中にかかわらず行うことができる。
  - (4) 交代について、主審、補助審判の承認を得る必要はない。

## 競技者の用具

- ① 両チーム、異なる色彩のジャージー（シャツ）を着用する。  
\*両チーム、ジャージー（シャツ）の色彩が同じ場合、また、同色彩のジャージー（シャツ）が揃わない場合、ピブスを着用して対応することができる。
- ② ゴールキーパーのジャージー（シャツ）色彩は、両チーム同じでも良い。
- ③ ジャージー（シャツ）に背番号を付ける必要はない。
- ④ 競技者は靴を履く必要があるが、その種類は問わない。
- ⑤ すね当ては着用する。
- ⑥ 競技者の用具はその競技者のみならず相手競技者にとっても安全なものでなければならず、試合開始前に競技者および交代要員の用具が主審または補助審判によって検査される。
- ⑦ 眼鏡については、主審が安全であると判断したものは着用できる。

### 主審

- ① 試合は、1人の主審によって運営される。
- ② 主審は、フェアプレー精神あふれる行動やリスペクトある行動を取った競技者にグリーンカードを示す。

※グリーンカードは試合開始前から試合中、また試合終了後であっても、ボールがインプレー中、アウトオブプレー中にかかわらず示すことができる。



### 補助審判

- ① 試合には、補助審判1名が指名される。
- ② 補助審判の任務は次のとおりとする。
  - (1) 主審によって要請された試合前、中、後の管理上の任務を援助する。
  - (2) ボールの交換を管理する。
  - (3) 交代の手続きが円滑に行われるよう、主審を援助する。
  - (4) チーム、競技者が試合中にフェアプレー精神あふれる行動やリスペクトある行動を取っていたのを見た場合、主審に知らせ、主審がグリーンカードを示す援助をする。
  - (5) 警告する競技者の特定を間違えて別の競技者が警告された場合や、2つ目の警告が与えられたにもかかわらずその競技者が退場させられない場合、また主審の見ていないところで乱暴な行為が起きた場合には、主審に合図する。

### 試合時間

- ① 前、後半それぞれ10～15分間を原則とする（年代によって変更できる）。
- ② ハーフタイム、インターバルは、5分間とする。
- ③ 3ピリオド制とした場合、3ピリオド目の中間点で、両チームのエンドを替える。

\* 前後半制

前半	ハーフタイム	後半
	エンドを替える	

\* 3ピリオド制

1ピリオド	インターバル	2ピリオド	インターバル	3ピリオド	
	エンドを替える		エンドを替える	エンドを替える	

### プレーの開始および再開

キックオフから直接相手のゴールに入った場合は、相手にゴールキックが与えられる。

### ファウルと不正行為

競技者が退場を命じられた場合は、その競技者のチームは交代要員の中から競技者を補充することができる。

